

四国がんセンター

呼吸器内科



ペメトレキセド+ＥＧＦＲ（内服）維持療法を受けられる

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿さま

2017年9月1日　作成
2026年11月12日　改訂

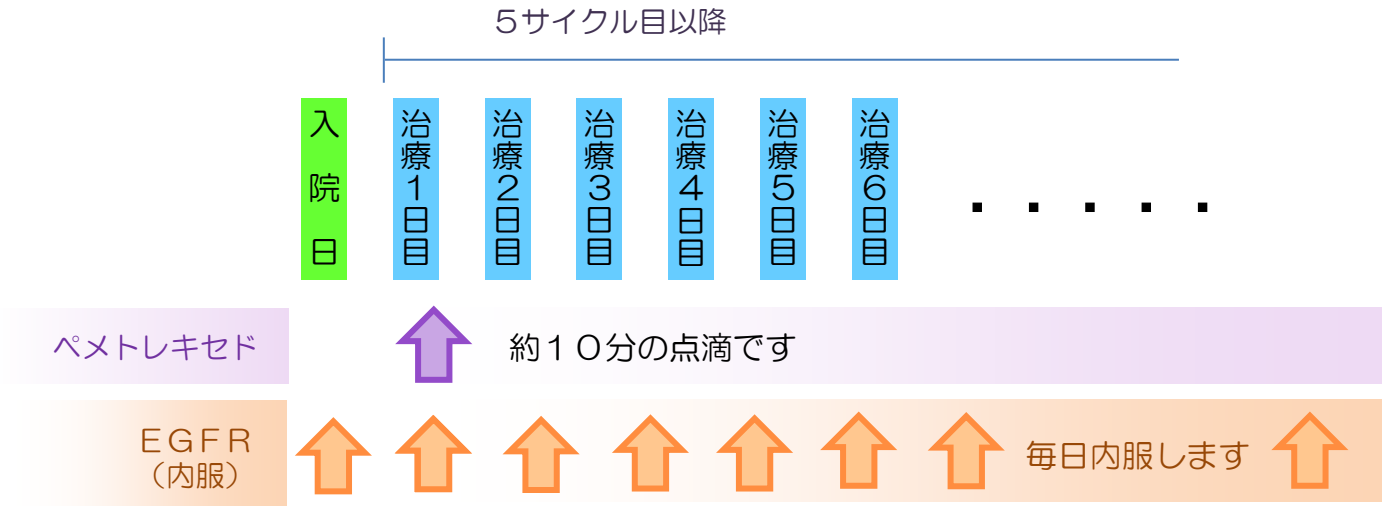
私たち医療スタッフは

Ⅰ．入院や抗がん剤治療に対する不安を軽減し、最良の状態で治療が受けられるようにお手伝いします

Ⅱ．抗がん剤治療の副作用や苦痛を軽減し、安全に治療を続けることができるようにお手伝いします



ペメトレキセド+ＥＧＦＲ（内服）維持療法のスケジュール



・この他に、アレルギー予防や副作用予防のための点滴があります

・抗がん剤を投与したときに、過敏反応が起こることがあります
過敏症状がでたら、早めに点滴を止めることが大切です
・息が苦しい、胸がドキドキする、吐き気など気分が悪いときは
我慢をしないで、すぐに医療スタッフにお知らせください



維持療法が始まります

◆これまでの治療、お疲れさまでした
今回から、ペメトレキセド+ＥＧＦＲによる維持療法を行います
維持療法では、これまでの治療で経験した副作用や体調の変化を確認しながら、治療を続けていきます
この冊子では、維持療法で変わること、これからも続けていただきたいこと、病院へ相談していただきたい症状を中心にご案内します

◆今回から変わること
・カルボプラチンの治療は終了します
・ペメトレキセド+ＥＧＦＲによる治療を続けます
・これまでの治療で経験した症状を確認しながら、必要な対処を続けます
・体調や検査結果を確認しながら、治療を継続します

◆これまでのセルフケアを続けましょう
・普段と比べて体調に変化がないか確認しましょう
・これまでの治療で行ってきたセルフケアを続けましょう

◆困っていることや、これまでの方法でうまく対処できなくなったことがあれば、医療スタッフと一緒に方法を見直します

排便について

普段からご自身の便の性状を確認し、入院中に排便調整の目安や方法を医療スタッフと一緒に確認しておきましょう

排便回数が４回以上増えたとき、下記の表の６（泥状便）～７（水様便）の排便が続くとき、周期的に腹痛があるときはすぐに医療スタッフに伝えましょう

３日以上排便がない、いきまないと便が出ない、便は毎日出ているがすっきりしない腹部膨満感などの症状があるときは、排便回数や性状によって緩下剤を使用します

※排便の状況や下痢・便秘の辛さは人によって違います
※排便のコントロールが難しい場合は看護師と解決方法を相談しましょう

便の性状について（ブリストルスケール）

ブリストルスケールは、便のタイプ（硬さ）を７種類に分類した世界共通の尺度です
自分の便のタイプを知り、排便調整の参考にしましょう

1	コロコロ便		硬くてコロコロの 兎糞状の便
2	硬い便		ソーセージ状であるが 硬い便
3	やや硬い便		表面にひび割れのある ソーセージ状の便
4	普通便		表面がなめらかで柔らかい ソーセージ状、あるいは 蛇のようなとぐろを巻く便
5	やや軟らかい便		はっきりとしたしわのある 柔らかい半分固形の便
6	泥状便		境界がほぐれて、ふにゃふにゃの不定形の小片便 泥状の便
7	水様便		水様で、固形物を含まない 液体状の便

入院中の生活の注意点



◆治療中は免疫力低下のため、感染リスクが高くなります
マスクの着用、手洗い・うがいをしましょう
入院中、手洗いの動画をテレビの無料チャンネルで視聴できます
◆口の中は清潔にするよう心がけましょう
◆排泄を促すために水分をしっかりとりましょう
◆膀胱に尿が溜まったままの状態は、腎臓や膀胱に負担がかかり炎症を起こすことがあります
尿意を感じたら、我慢をしないでトイレに行きましょう
◆排尿時に痛みや残尿感がある場合には看護師にお伝えください
◆正しく安全に点滴を投与するために輸液ポンプを使用します
・点滴が入っている部位を曲げたり、ねじったり、また、点滴チューブをひっぱったりしないようにしてください
・歩行時は、点滴台を支えにして歩くと転倒する可能性があります
点滴台は、支えにしないようにしましょう

こんなときは看護師にお知らせください
＊輸液ポンプを使用しているときに機器のアラーム音が鳴ったとき
＊点滴が入っている部位に違和感や痛みを感じたり、腫れてきたとき



◆抗がん剤治療開始から治療後２日間ほどは、尿や便などから抗がん剤が排出されます
尿や便に直接触れても健康に直接被害を及ぼすことはありませんが、できるだけ周りに広げないように以下のことに注意しましょう

・男性の方は飛び散り防止のため、座って排尿しましょう





・尿がこぼれた場合は、トイレットペーパーできれいに拭き取りトイレに流しましょう
２度拭き取ると良いでしょう

・トイレの後、フタがある場合は、
フタをして水を２回流しましょう



・ナプキンや尿とりパッドを使用している場合は、看護師にお知らせください
＊使用済みのナプキンや尿とりパッドは、ナイロン袋に入れて口を結びましょう
＊トイレからナースコールを押して、看護師に渡しましょう

・トイレのあとは石けんなどでよく手を洗いましょう
・尿や吐いてしまったもので衣類が汚れた場合は、ほかの洗濯物と分けて洗濯しましょう

ダイアリー

このパンフレットでは、維持療法のスケジュールと、これまでの治療で経験した副作用やセルフケアを振り返りながら、今後も安心して治療を続けるためのポイントを確認していきます
これまでの治療で困ったことや、気になっている症状があれば、医療スタッフと一緒に対処方法を考えていきましょう

また、よりよい状態で退院を迎えられるように患者さんご自身の目標と医療スタッフの目標をあげています

入院は、約１０日間の予定です

治療後の回復は、個人差があり、体の状態によっては、予定どおりにすすまないこともありますが、その都度対応していきますのでご安心ください

私たち医療スタッフは、これからの入院生活を不安なく送れるように支援させていただきます



入院日～治療前日　　月　　日～　　月　　日



今日の目標
- 維持療法の治療内容を確認できる
- これまでに経験した副作用や困りごとを医療スタッフに伝えることができる
- ビタミン剤を継続して飲むことができる

＜時間＞　＜予定＞

11：00　入院

治療日誌を記入しましょう

抗がん剤を服用します
抗がん剤はセーフティーボックスに入れて保管しましょう

決められた時間にパンビタン粉末を飲みましょう



12：00　昼食

【入院後に以下のことを予定しています】
（テレビの病院案内も参考にしてください）
- 検温、血圧測定、身体測定
- 連絡先、既往歴、生活習慣などの聞き取り
- 血液検査、尿検査、レントゲン検査
- 看護師と一緒に、これまでの治療を振り返り、
  - どのような副作用があったか
  - 現在も続いている症状があるか
  - セルフケアで困っていることはないか一緒に確認します

治療の流れや注意事項について説明します
過敏症、点滴部位の痛み・血管痛について説明します
「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照

＜お薬＞
- 他の病院で処方された薬は、一度お預かりします
  医師に確認後、続けるか、中止するかをお伝えします
- ビタミン剤（パンビタン粉末）を正しく飲めているか確認します

＜食事＞
- 食物アレルギーのある方は、医療スタッフにお知らせください
- 基礎疾患（糖尿病、高血圧等）がある方は、治療食になる場合があります
- 管理栄養士より病院食や食事の工夫について説明があります
  外来治療中も、味覚障害や食欲不振等がある場合、栄養指導を希望される場合は、お知らせください

18：00　夕食

21：30　消灯

＜清潔＞
- 治療前日は、シャワー浴をしましょう

薬剤師と、維持療法の治療内容や注意点について確認します
これまでの治療で薬について困ったことがあればご相談ください





医療スタッフの目標
- 入院生活や抗がん剤治療の対する不安や心配ごとがないように支援します

治療１日目　　月　　日



今日の目標

- 予定どおり、安全に治療を受けることができる
- 体調の変化があれば、医療スタッフに伝えることができる
- ３７.５℃以上の発熱がない

＜時間＞　＜予定＞

6：00 起床 検温 血圧測定

水分をしっかりとりましょう
治療日誌を記入しましょう

抗がん剤を服用します
抗がん剤はセーフティーボックスに入れて保管しましょう

決められた時間にパンビタン粉末を飲みましょう



7：30 朝食

10：00 検温 血圧測定

- 点滴は約３０分の予定です
  開始時刻については、看護師からお知らせします
  （　　）時から、点滴をします

※抗がん剤の点滴前後で血圧、脈拍を測定します

- 治療前に、トイレに行きましょう
- 点滴中は管を無理に引っ張ったり、針の入っているところを押さえたりしないようにしましょう
- 点滴が終了後、シャワー浴ができます
  体調に合わせて体を拭くこともできます
  看護師がお手伝いします

12：00 昼食

- 針の入っているところが赤くなった、腫れている、痛みがあるときはすぐにお知らせください
- 息が苦しい、胸がドキドキする、吐き気など気分が悪い、体がかゆい、咳が出るときは、我慢をしないでお知らせください

- 副作用の対処方法や日常の過ごし方など不明な点があればお知らください
- 吐き気や口内炎などで食事が食べにくいときは、食事内容を変更できます

18：00 夕食

19：00 検温、血圧測定

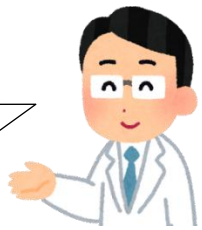


フタをして水を２回流しましょう

21：30 消灯

医療スタッフの目標

- アレルギー症状や副作用症状の早期発見に努めます
- 抗がん剤の血管外漏出予防に努めます



治療２日目～３日目　　月　　日～　　月　　日



今日の目標
- 副作用の程度に応じて、これまで学んだ対処方法を実践できる
- 困っている症状や対処方法について医療スタッフに相談できる
- ３７.５℃以上の発熱がない

＜時間＞　＜予定＞

6：00 起床

水分をしっかりとりましょう
治療日誌を記入しましょう

7：30 朝食

抗がん剤を服用します
抗がん剤はセーフティーボックスに入れて保管しましょう

決められた時間にパンビタン粉末を飲みましょう



10：00 検温、血圧測定



フタをして
水を２回流しましょう

12：00 昼食

この治療で経験した副作用について確認します
- 吐き気、食欲低下、下痢・便秘
- 口内炎
- 皮膚や爪の症状

困っている症状や、対処方法を確認したいことがあればお知らせください
「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照



- 副作用の対処方法や日常の過ごし方など不明な点があればお知らせください
- 吐き気や口内炎などで食事が食べにくいときは、食事内容を変更できます

シャワー浴をしましょう

18：00 夕食

21：30 消灯

医療スタッフの目標
- 副作用症状の早期発見に努めます
- 不安なく療養できるように支援します
- 抗がん剤の血管外漏出予防に努めます



治療４日目～退院前日　　月　　日～　　月　　日



今日の目標
- 副作用症状があれば、医療スタッフに知らせることができる
- ビタミン剤を自分で管理し、飲むことができる
- ３７.５℃以上の発熱がない
- 退院後の日常生活の注意点について理解できる

＜時間＞　＜予定＞

6：00　起床

水分をしっかりとりましょう
治療日誌を記入しましょう

7：30　朝食

抗がん剤を服用します
抗がん剤はセーフティーボックスに入れて保管しましょう

決められた時間にパンビタン粉末を飲みましょう



10：00　検温、血圧測定

12：00　昼食

スキンケアを一緒に振り返ります
- 保湿や洗顔
- 洗髪などで困っていること
- 皮膚や爪の症状
- 塗り薬や飲み薬の使い方

症状や生活に合わせて、セルフケアの方法を一緒に確認します
「ＥＧＦＲ阻害剤の治療を受ける方へ」パンフレット参照



★退院前日
退院後の日常生活について説明します
「退院後の日常生活について」ページ参照

18：00　夕食

- 副作用の対処方法や日常の過ごし方など不明な点があればお知らください
- 吐き気や口内炎などで食事が食べにくいときは、食事内容を変更できます

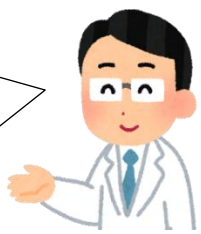
21：30　消灯

感染予防のために手洗い・うがいはしっかりしましょう

息が苦しくなった、咳が増えた、皮疹（発疹）が出た、３７.５℃以上の熱が出たときなどは、すぐにお知らせください



医療スタッフの目標
- 副作用症状の早期発見に努めます
- 不安なく療養できるように支援します
- 退院の準備をすすめられるように支援します



退院日　　月　　日



今日の目標
- ３７.５℃以上の発熱がない
- 退院後の日常生活の注意点について理解できる
- 退院できる

＜時間＞　＜予定＞

水分をしっかりとりましょう
治療日誌を記入しましょう

決められた時間に
パンビタン粉末を
飲みましょう



6：00　起床
検温、血圧測定

抗がん剤を服用します

7：30　朝食

次回外来予約票をお渡しします

10：00　退院
退院前に忘れ物がないようにご確認ください
「入院診療費料金連絡票」を病室にお届けしますので、
２階医事受付窓口でお支払ください



フタをして
水を２回流しましょう

ビタミンＢ１２の筋肉注射は、９週間ごと（約２～３か月）に
外来または入院で実施します

医療スタッフの目標
- 退院後の日常生活に不安がないように支援します

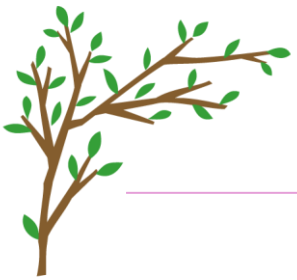


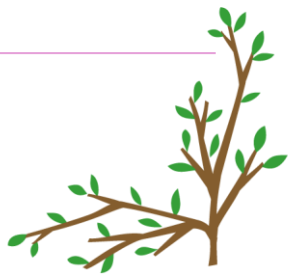
体調の変化や副作用症状を書きとめていきましょう

月／日			月／日		
1日目	／		8日目	／	
2日目	／		9日目	／	
3日目	／		10日目	／	
4日目	／		11日目	／	
5日目	／		12日目	／	
6日目	／		13日目	／	
7日目	／		14日目	／	

体調の変化や副作用症状を書きとめていきましょう

月／日		
15日目	／	
16日目	／	
17日目	／	
18日目	／	
19日目	／	
20日目	／	
21日目	／	





退院後の日常生活について

●発熱・感染予防

抗がん剤の影響で白血球が減少し、感染しやすくなることがあります

・手洗い、うがいを行いましょう
・人混みではマスクを着用しましょう
・３７.５℃以上の発熱がある場合は、病院へご連絡ください

●呼吸

まれに肺障害が起こることがあります

・息苦しさがあるとき
・咳が続くとき
・息切れが強くなったとき
・発熱を伴うとき

このような症状がある場合は、早めにご連絡ください

●皮膚

ＥＧＦＲ阻害薬の影響で皮膚症状が現れることがあります

・保湿剤を使用しましょう
・日焼けを避けましょう
・外出時は帽子や日焼け止めを使用しましょう

以下のような症状がある場合は、外来受診時に医療スタッフへお伝えください

・発疹が出たとき、発疹が広がったとき
・かゆみが強いとき
・皮膚の痛みがあるとき
・爪の周囲が赤く腫れたとき

●下痢

ＥＧＦＲ阻害薬の影響で下痢が起こることがあります

・水分を十分に摂りましょう
・消化のよいものを食べましょう

次のような症状があるときはご連絡ください

・強い下痢が続くとき
・水分が十分に摂れないとき
・強い腹痛があるとき

●食事



無理をせず食べられるものを選びましょう
少量ずつ回数を分けて食べることも効果的です
味覚障害や食欲不振等がある場合、栄養指導を希望される場合はお気軽にお声かけください
自宅で調理をしている方など、一緒に管理栄養士の話を聞きたい方がいる場合は一緒に来院してください

●口腔ケア

毎食後の歯みがきとうがいを続けましょう
口の中を清潔に保ちましょう
口内炎や口の痛みがある場合はご相談ください

●お薬



パンビタン粉末（葉酸）は副作用を軽減するための大切な薬です
・医師の指示どおりに内服しましょう
・自己判断で中止しないでください
・ビタミンＢ１２注射は、外来で継続します
他の病院の薬を服用する場合は、医師に相談してください
服用しても症状が改善されない場合は、病院にご連絡ください

●治療日誌を活用しましょう

毎日の体調や気になる症状を記録しましょう
外来受診時にお持ちいただくことで、体調変化の確認に役立ちます
自宅療養中に気がかりなことがありましたら、外来受診時に「治療日誌」をご用意のうえ、主治医にご相談ください
次回治療時にもお持ちください

●こんな症状に注意しましょう

・片方の足の腫れ・痛み、急な息苦しさや胸の痛み
・むくみや急な体重増加、息苦しさ
気になる症状がある場合は、我慢せず、すぐに病院へご連絡ください

●活動

体調に合わせて無理なく過ごしましょう
散歩など軽い運動を続けましょう

●仕事

これから先、安心して働き続けるためには
体の状態に合わせた休み方や働き方が必要になることもあります
病院では、患者さんの「働きたい！」をサポートしています
ご相談は、がん相談支援センターへお問い合わせください



厚生労働省『治療と仕事の両立支援』キャラクター



- ３７.５℃以上発熱があるとき
- 息切れや咳が悪化したとき
- 皮疹が急に増えたとき
- 皮疹が悪化したとき
- 爪の周囲が赤く腫れたとき
- 水分・食事がほとんどとれない日が続くとき
- 下痢が続くとき

上記のような症状がある場合やその他ご心配なことがある場合は
がん相談支援センターにご連絡ください

◆四国がんセンターの連絡先◆

【平日】　８：３０～１７：１５
四国がんセンター　がん相談支援センター
（直通番号）　０８９-９９９-１１１４

【平日上記時間外および土・日・祝日】
日直/夜間当直師長
（代表番号）　０８９-９９９-１１１１

翌日以降の外来受診日や検査予約日の変更
【平日】　１３：００～１７：００
四国がんセンター　予約センター
（直通番号）　０８９-９９９-１１１２



ペメトレキセド+ＥＧＦＲ（内服）維持療法を受けられる方へ